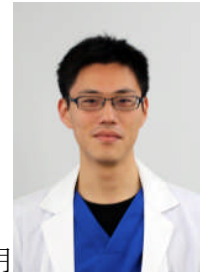


## 和歌山病院での実習を終えて



渡部 博明

今回、呼吸器内科での臨床実習の一環として、和歌山病院で2日間の実習を経験させていただきました。駿田先生による結核病棟の実習に始まり、感染対策全般の話からワクチンの話まで、これまでの座学で得た教科書的な知識を実臨床と照らし合わせて学びなおすことができ、大変学びの多い実習でした。南方先生には、学生の苦手とする読影方法についての基礎を、なぜそのような画像が得られるか、なぜそうなるのかという原点から考え直す機会を与えていただきました。膨大な医学知識を叩き込むだけの勉強では役に立たず、原理原則に立ち返って考えるという思考過程の重要性を再認識させていただきました。医者の基礎となる国家試験で問われる知識の、その基盤をさらに基盤となる知識を考えながら学ばせていただいたので、とても印象深く記憶に刻まれました。

南方先生や駿田先生をはじめとした数多くの先生方から、大学病院とは異なる立場から、将来自分たちが患者さんと接する際にどういうことに気を付けるべきなのか、初期対応をどうすべきなのかなど、多くのことを教えていただきました。2日間という短い期間ではありましたが、今回対応してくださった先生方、病院スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。本実習での学びを今後の臨床実習、その先に待ち受ける医者人生に活かしていきたいと思っております。ありがとうございました。